

千曲市市民の皆様

## 千曲市の持続的発展を

「行政コミュニケーションの最適化」で  
実現する双方向参加型地域経営コミュニケーション

『ポリネコ！CHIKUMA』  
CHIKUMA



ポリネコ！



2024年4月25日

令和5年度成果報告

(2023年度)

および

令和6年度への展開提案

(2024年度)

 千曲市役所  
行政マネジメント室

# 2023年度の取り組み概要

## 成果

- ①・千曲市役所と繋がる参加者が778名と増加（昨年は314名）（\*4月25日現在は807名）
- ②・**消防団の運営改革**の方向性を見出す意思形成のサポートに成功  
→操法大会のあり方（[ポンプ操法大会から操法技術総合訓練会へのシフト](#)）
- ③・千曲市の**子ども基本法**、**子どもまんなか社会**に対応する方向性の確認に成功  
→（[継続的対話と、大人と子どもと一緒に課題解決を行うこと](#)）を先行展開の屋代中1年生の回答から確認
- ④・**各地域別の防災意識**と、個別の「声」の確認ができた  
→地区ごとの防災コミュニケーションを策定するデータの基礎を確保（2024年度展開の基礎）
- ⑤・**住民からの「声」**を継続的に受け止め、返答する環境を構築  
→61件の「声」を受付、希望に応じて、ブログで返答

## 反省点と対策案

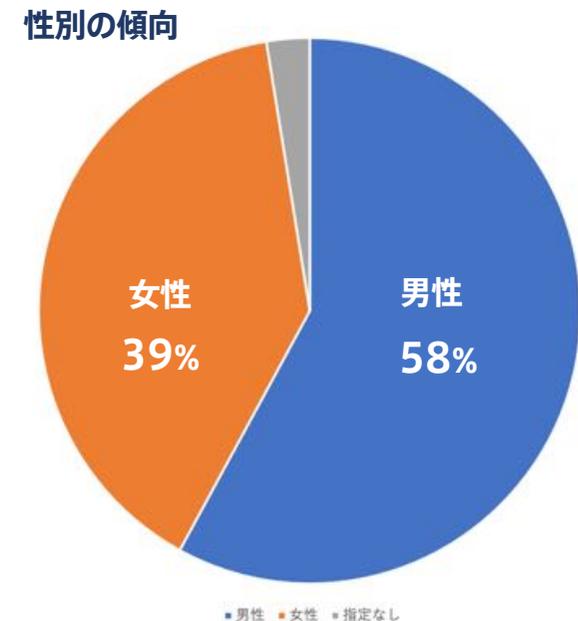
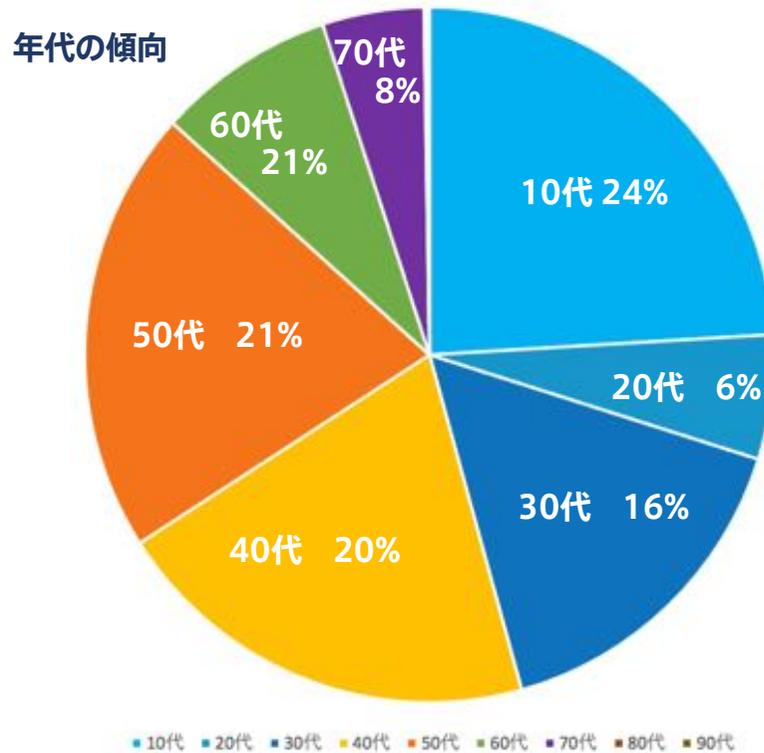
- ・郵送による参加告知を行った防災2023の参加者が（189名）と低調であったこと
- ・特に、防災2023のD地区（代・大池・姨捨・峯・上町・仙石・羽尾第四区・羽尾第五区・須坂）の回答者が8名と少なかったこと  
→関係者ヒアリング、及び、[パスコード付与型（登録の省力化）](#)による回答参加方式を検討
- ・高校生向けの設問テーマへの回答が（6名）と低調であったこと。  
→高校との連携協定など、学校と行政との連携関係を検討

## 提言

- ①・「子どもまんなか宣言」の具体化のひとつとして、市立中学校生徒を中心に、子どもである中学生と市議会議員と一緒に地域課題を考える仕組みを創設（「ポリネコ！CHIKUMA」の機能＝住民と議会議員と一緒に地域課題について意思形成できる機能の活用）  
全国初の中学生と市議会議員と一緒に地域課題に向き合えるまちとなることを内外にアピール。
- ②・まちづくり（SI屋代地区づくり/公民連携推進室）の取り組みを起点に、長野（須坂市のイオンモール）、上田（現アリオ/2025年からロビア）に挟まれた千曲市としての、商いのあり方を確立。千曲市市民の憩いと遊びが、周辺自治体から人々を集める構造を創る。  
この意思形成、合意形成に「ポリネコ！CHIKUMA」を活用。（SI屋代の地区運営にも「ポリネコ！CHIKUMA」を応用可能）
- ③・参加インセンティブを検討（回答すると何かが当たる、パンやアイスと引き換えなど＝地域参加で良いことがある）
- ④・広報・公聴、各課との連携強化（サイトへのバナー再掲（デザイン差し替え）、アニメ「Turkey!」との連携、など）

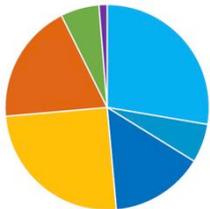
# 参加者の状況-年代

- ・ 昨年度から2.5倍の増加
- ・ 最年少は13歳、最高齢は92歳
- ・ 10代~40代で66% (昨年度は74%)
- ・ 次世代層、現役世代と行政がつながるメディアとなりつつある  
(課題)
- ・ 10代後半から20代の参加者が少ないため、高校生、大学生へのアプローチが有効と考えられる。(次頁参照)



昨年度の年代の傾向

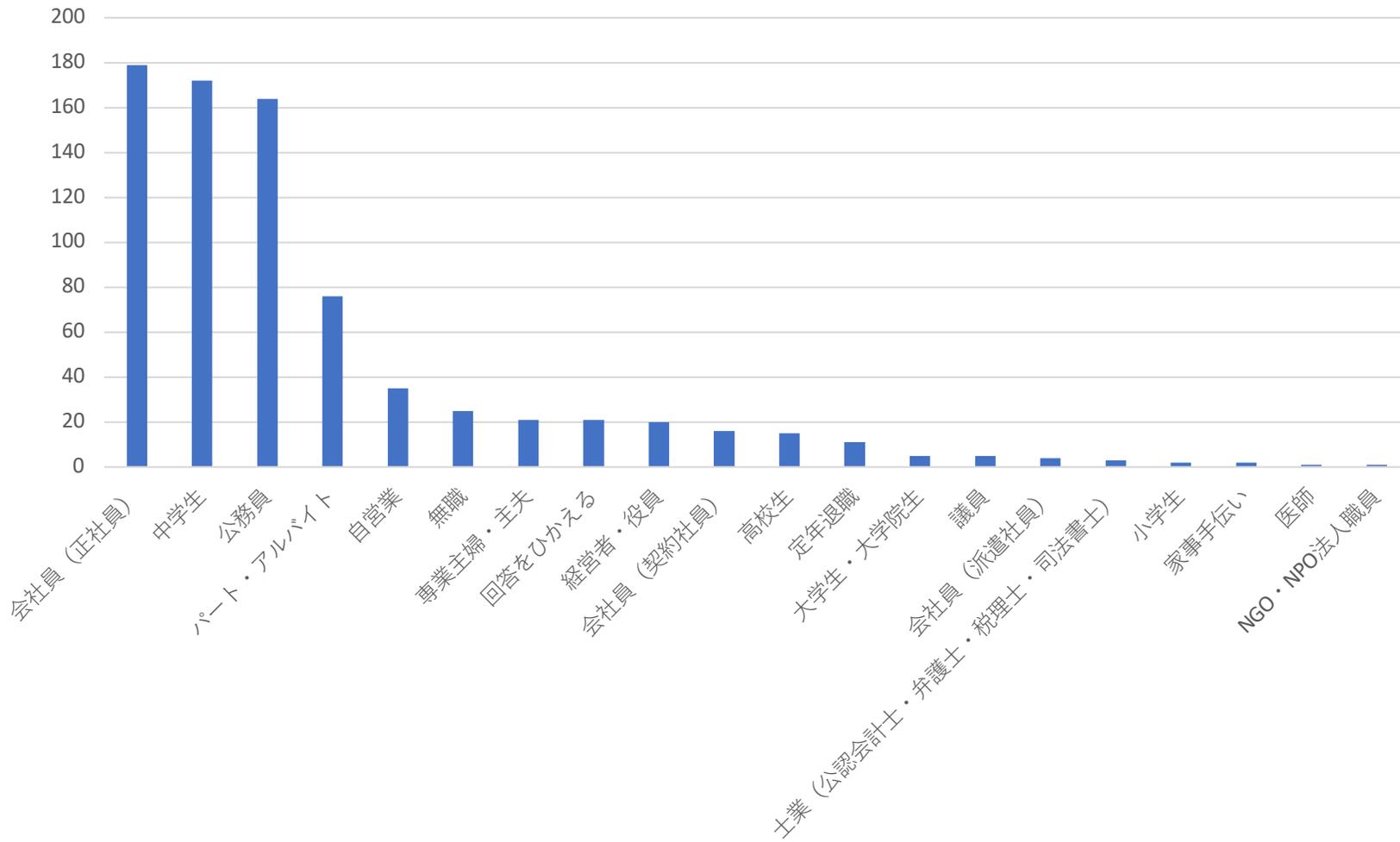
年代分布



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

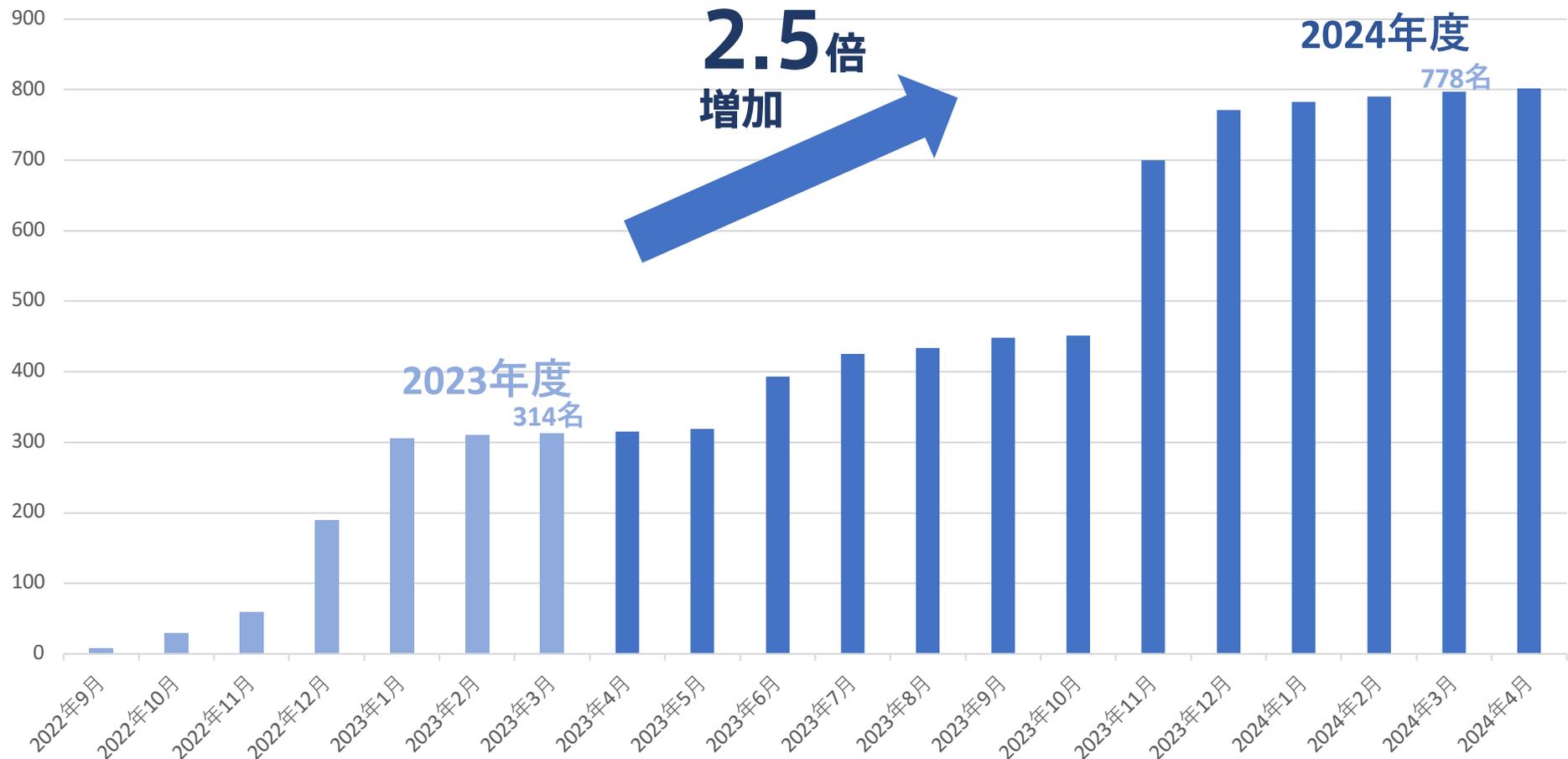
# 参加者の状況-職業別

- ・ 会社員、中学生、公務員で66%
- ・ 小学生、高校生、大学生の参加はより多く期待できる



# 参加者の状況-時系列での増加傾向

- ・ 防災2023の参加案内により、11月のみで249人が参加。
- ・ 継続的な広報誌での発信、各種調査の郵送案内による参加機会の確保が参加者数向上に有効。

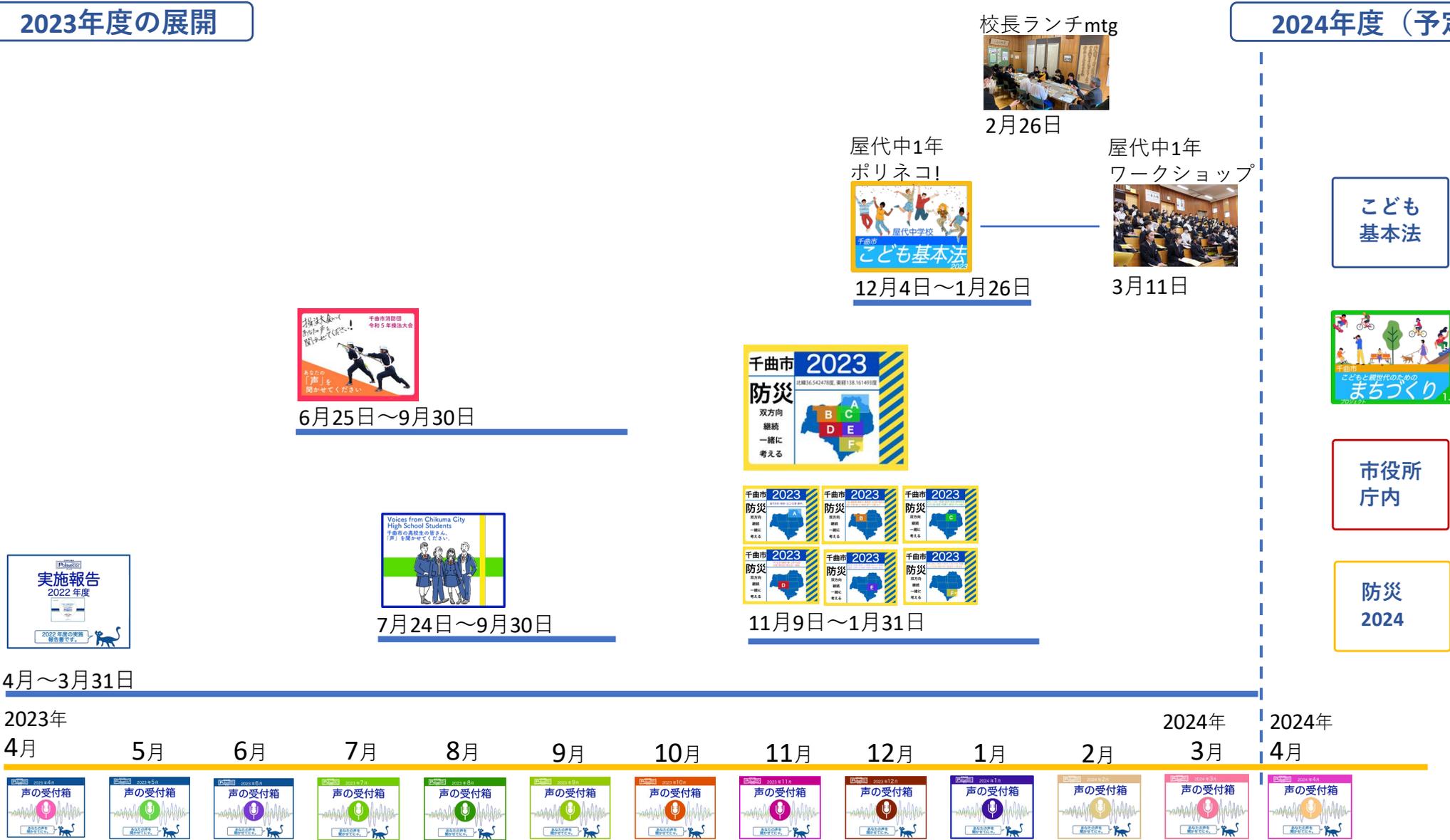


# 2023年度の各テーマ実施スケジュール

・これまでの取り組みから、庁内から『ポリネコ!』の使い方に理解いただけるようになり、多くの設問展開が可能となりつつある

## 2023年度の展開

## 2024年度（予定）



6月25日～9月30日



7月24日～9月30日



11月9日～1月31日



2月26日

屋代中1年  
ポリネコ!



12月4日～1月26日

屋代中1年  
ワークショップ



3月11日



2023年  
4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

2024年  
3月

2024年  
4月



# 防災2023



・ 地区ごとの防災意識の確認を実施。  
(右図、緑色は、住民と千曲市役所が連携して防災にあたるタイプ)

・ 防災の備えについては、**約3分の1以上が、「防災の備えを、していない」と回答。**  
消防団の取り組みと合わせ、市民の日常的な防災への備えを行う必要があることが確認できた。

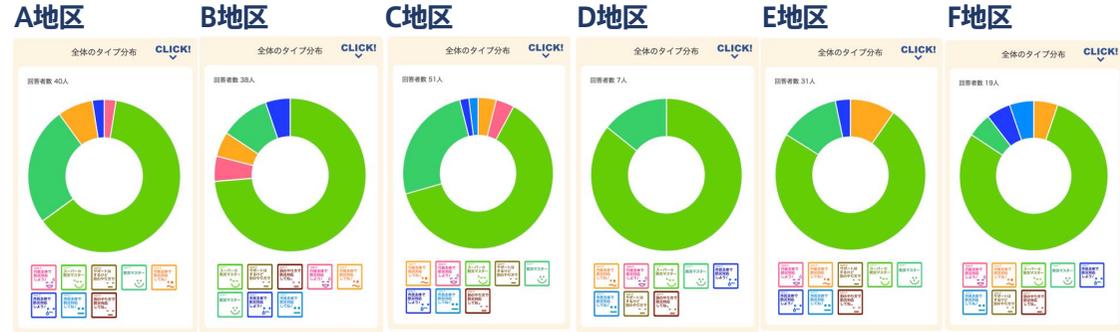
・ また、防災の備えをしている場合、どんな備えをしているかの傾向も確認することができた。

・ (防災の備えをしていない)の回答が、防災の備えをしていない数値よりも、低いのは、選択肢を見て選ぶことで、備えを再確認できた可能性が考えられる。  
それでも **回答者の約3割は、防災の備えをしていない点を重視すべき**と言える。

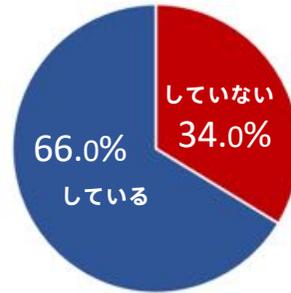
・ 回答者の内、**半数以上が、避難場所を決めていない**点も対応が急がれる。

あなたは、どんな防災の備えをしていますか？  
下記に当てはまるものがあれば選択してください。(複数選択可)  
前の設問で(防災の備えを、していない)とお答えの方は、選択肢の(防災の備えを、していない)を選択してお進みください。  
選択肢を読んで、実は備えをしていると判った場合は1つ前の設問に戻ることができます。

- 非常用持ちだし袋を用意している
- マイ・タイムラインを書いている
- 避難場所を決めている
- 万が一の際の避難場所や連絡方法を家族と共有している
- 地域コミュニティに参加している
- 住宅の耐震診断や耐震改修を行っている
- 上記以外の対策を行っている
- 防災の備えを、していない

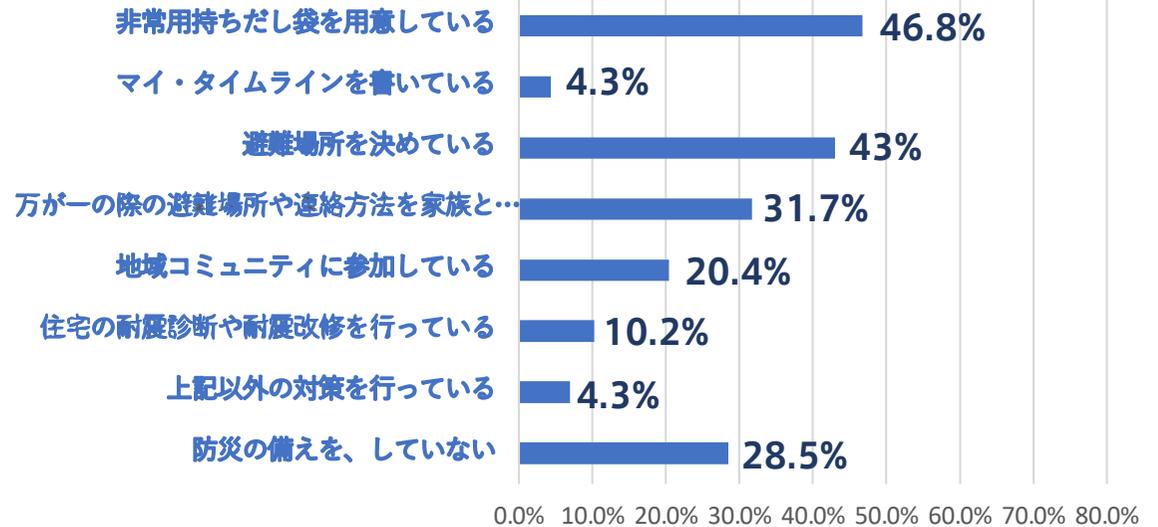


・ 防災の備えをしているか/していない



■ 防災の備えを、していない ■ 防災の備えを、している

・ 考えタイプ





## 回答者からの『声』-抜粋

この頃、地震や大雨があるときがあります。家の前の電信柱が大分傾き何度か電気等の引き込み線を伸ばした経緯があります。市・町・中部電力各方面に連絡しましたが一向に対処してくれません。何とかお願い致します。（50代 男性）

消防団員がすくなくなっている（50代 女性）

実家の近くに田んぼの水を堰き止める用水路があります。6月から勝手に、他の地域の方が水を止めに来て、実家の前の川の水が毎年氾濫します。長野県に大打撃だった台風19号の次の年は、勝手に地域の方はきて止めに来ませんでした。しかし、それ以降は毎年のようにしめに来られています。毎年歩道が水で浸っているのを見ると、19号を思い出して大変嫌な気持ちになります。近くに住む住民への気持ちはどうなるのでしょうか。お聞かせください。（30代 女性）

千曲川の川西側すぐに障がい者施設がありますが、市民には余り知られていないのが心配です。19号での浸水が川西に来ていたら、の被害は想像できません。過去もこれからも必要な施設がありますから、市長にその存在をまず知っていただきたいと、一市民として思います。（50代 女性）

2019年、スマホや市の放送で避難を促すアナウンスがあったが「ここは大丈夫、避難所に行く必要はないだろう。本当に危なかったら火の見櫓の鐘がけたましくなるだろう」と思い込んで避難しなかった。私にとって避難するときの目安が火の見櫓の鐘でした。長沼の火の見櫓のニュースを聞いて、火の見櫓の鐘が火事の時にしか鳴らさないということを初めて知って驚きました。災害で避難を経験したことがない私にとっては、スマホや市の放送のみだとあまり危機感を感じなくて、むしろ火の見櫓の鐘を鳴らしてもらったほうが危機感を強く感じることができる。火事以外でも緊急で避難が必要な時は鐘を鳴らしてもいいのではないかと思います。鐘がダメならもっと強く危機感を感じてもらう方法を模索する必要があると思います。（50代 男性）

地域における要支援者対策の意識が低いので、福祉分野の意見を聞くべき（50代 男性）

高齢の二人暮らしや一人暮らしの家庭が年々増えています。民生委員の見守りはしていますが、充分とはいえません。特に災害時の対応が心配になります。（70代 女性）

今回このようなアンケートをして、災害に対して全く知識がない事がわかりました。改めて知った事や、災害に関心が持てたので良かったです。今後クイズ形式で誰でも簡単に楽しみながら、できる方法があればいいなあと思いました。いい機会をいただきありがとうございました。（50代 女性）

# 防災2023



- ・千曲川の氾濫時最高水位についての認知は、半数以下に留まっている。
- ・ペットの避難所への同行についての認知は50%前半、地域によっては半数以下の場合もあり、認知向上と対応（避難所のペット対応、ケージや排泄環境）を進める必要がある。尚、昨年と同じ問題での正答率は43.7%であり、認知は向上している。
- ・避難所の運営についての正答率は高い。

### Q2

1949年からの観測史上、千曲川が大雨で増水した時の最高水位は、約何メートルまで上がったでしょうか？

- 3.5メートル
- 5.3メートル
- 9.9メートル
- 12.4メートル
- 18.2メートル

正解は（12.4メートル）

正答率

43.1%

### Q3

あなたはいま、ペットと暮らしています。大きな地震のため避難所に避難しなければなりません。しかし、ペット（犬）がいます。犬を避難所に同行させてもいいでしょうか？

- ペットは同行禁止
- ペットは同行OK。でも普段から準備することが望ましい
- ペットは基本禁止、だが事前登録で許可されることもある

正解は（ペットは同行OK。でも普段から準備することが望ましい）

正答率

54.3%

### Q4

あなたはいま、避難所の運営担当者です。その避難所に600人が避難しています。しかし、避難所に届いたおにぎりは、400人分だけです。このおにぎりは配るべきと思いますか？

- 配るべきではない
- 先に、400人分配るべき
- 工夫して600人に分けて、配るべき

正解は（工夫して600人に分けて、配るべき）

正答率

75.5%

### Q5

災害用伝言ダイヤルは、災害発生時に基本無料で使える伝言録音と共有の仕組みです。お互いの電話番号を知っていれば、30秒のメッセージを最大20件送れます。この災害用伝言ダイヤルの番号は、以下のどれでしょうか？

- 119
- 777
- 717
- 171
- 110

正解は（171）

正答率

79.8%

# 防災2023



- ・災害用伝言ダイヤルの認知は高かったものの、使える時がいつかについては認知の正答率に比較して半数と低い結果が確認された。訓練の一環などで、スマホから171をダイヤルする体験を用意すること有効と考えられる。
- ・「てんでんこ」は東日本大震災大震災で広まった言葉であるが、意味の正答率は66%に留まり、その内容への理解は、ほとんど浸透していないことが明確となった。
- ・自分が住む地域の災害リスク（ハザードマップ）理解は、極めて低く今後の課題と言える。

Q6

では、この災害用伝言ダイヤル171を利用できるのは、どのような時でしょうか？

災害時のみ

災害時と毎月1回の練習日

災害時と毎月2回の練習日とお正月と防災週間、ボランティア週間

正解は（災害時と毎月2回の練習日とお正月と防災週間、ボランティア週間）

正答率

41.1%

Q7

東日本大震災以降、災害への心構えとして広まった言葉、「津波てんでんこ」の「てんでんこ」とは、どういう意味でしょうか？

どんだん

それぞれ、各自で

あっちこっち

むちゃくちゃ、ひっくり返る

正解は（それぞれ、各自で）

正答率

66.0%

Q8

「津波てんでんこ」の意味として正しいものをすべて選択してください。（複数選択可）

自分の命は自分で守る

誰かの言うことに従う

まわりの人のことも考える

相互信頼が重要

最善を尽くしてもうまく行かない事がある

正解は（自分の命は自分で守る、相互信頼が重要、最善を尽くしてもうまく行かない事がある）

正答率

3.7%

Q9

あなたがお住まいの（屋代全区・雨宮・土口・生萱・倉科）地区の災害リスクとして当てはまるものをすべて選んでください。（複数選択可）

ほぼ全域で5m～10m未満の浸水が想定されている

国道18号沿いは、安全である

10m以上の浸水が想定されている場所が地域内にある

想定し得る最大規模の雨（いわゆる、1000年に1回程度の降雨）が来年、降る可能性もある

三滝川の流域には5m以上の浸水が想定されている場所がある

想定される大地震による建物全壊率は、この地域のほぼ全域で20%以上である

正解は各地区ごとに異なります。

正答率

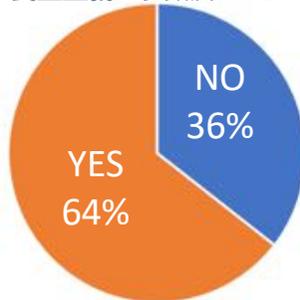
2.7%

# こども基本法-屋代中学校での先行展開



- ・屋代中学校1年生を対象に「こども基本法」の設問テーマを展開。
- ・「こども基本法」の趣旨である、こどもが意見を言える環境について、学びながら意思表示を行う設問を設計。
- ・市役所や学校に**自分の意見を言えているは、51%**  
**約半数は、意見を言えていない状態。**
- ・**民主主義=多数決との間違った回答は64%**であり、**全員にとっての最適解をつくるのが民主制であるとの経験ができる、学びの環境づくりが求められる。**

・民主主義は多数決はYES?



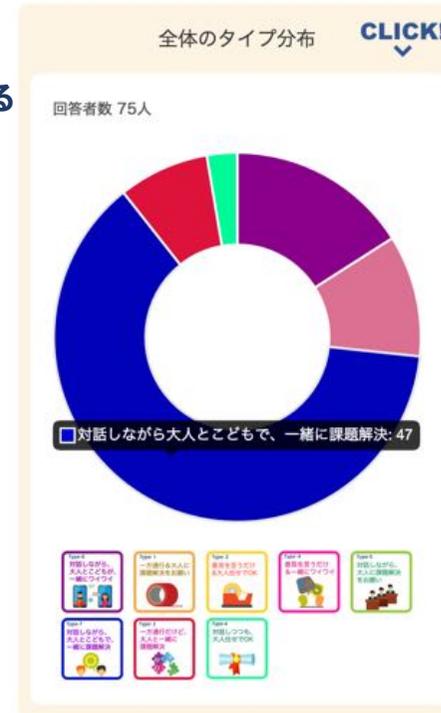
・意見を言えていますか?



※できていない ※ある程度できていると思う ※どちらともいえない  
※あまりできていると思わない ※できていないと思う

## ・ワークショップで寄せられた「声」の一部

- 自主練でいいから朝練させてほしい
- 外国語のクラブがほしい
- 誰でも気軽に質問を送ったりできるようにしたい
- ミュージシャンになりたいから軽音楽部をつくってほしい
- 勉強できるスペース、落ちついて集中できる所
- 自販機ほしい
- 部活時間の制限をなくしてほしい
- 屋代中版ポリネコで特定の人だけじゃなく、全員が授業などで発言しやすい環境をつくってもらい意見を共有したい



「対話しながら大人とこどもで、一緒に課題解決」：63%

ついで、

「対話しながら大人とこどもが、一緒にワイワイ」：16%

合わせて、79%の回答者が、こどもの声の届け方として、継続的対話と、大人とこどもが一緒に課題解決を行うことを意思表示

- 子供だけの時に行動範囲を拡げてほしい
- 誰でも自分の意見を当たり前と言える学校にしたい
- 大人とこどもが一緒に学校に関わるみんなが過ごしやすい学校
- 修学旅行を3泊4日に
- 失恋休暇がほしいです。
- 生徒会でポリネコを使うといい
- 千曲市の中学校版ポリネコで千曲市の色々な学校と交流して友達を増やしたり仲を深めたい
- 体育館に冷房をつけてほしい

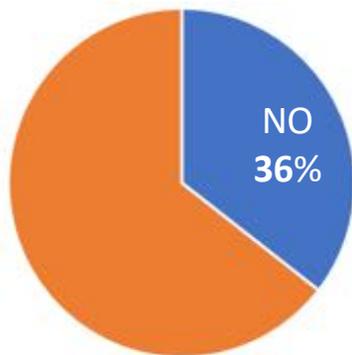


# こども基本法-屋代中学校での先行展開

- ・民主主義=多数決という誤解が過半数を占めていることが判る。
- ・「こども基本法」のこどもの定義について、正答率は約1/3であり、「こども基本法」への理解が現状では、不十分であったことが判る。
- ・上記のいずれも、回答プロセスで正解につながる背景情報に触れており、現在の認知は向上していると考えられる。

わたし達の社会の基本的な仕組み  
(民主主義)は多数決によって、  
ものごとが決まる仕組みである。  
これは、(YES)か(NO)の  
どっち?

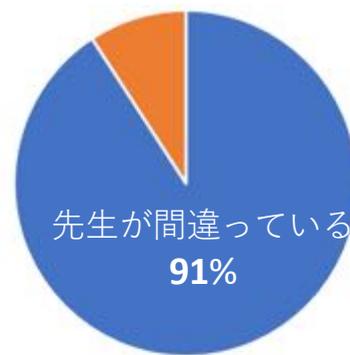
正解は (NO)



民主主義と政治システムにおける  
多数決を混同する傾向が見ら  
れる。

先生が「校則は変えられない」と  
言ったら、校則は変えられない。  
これは、(先生が正しい)か(先  
生が間違っている)のどっち?

正解は (先生が間違っている)



■ 先生が間違っている ■ 先生が正しい

高い正解率であり、属人  
的な判断に拠らないこと  
が、ほぼ共有されている。

『こども基本法』で(こども)  
は、どのように定義されているで  
しょうか?

正解は (年齢で対象は定義されない)



■ 15歳までが対象 ■ 18歳までが対象 ■ 20歳までが対象 ■ 年齢で対象は定義されていない

約1/3の正解率であり、  
こども基本法の趣旨につ  
いて、今後の広報の改善  
ポイントと言える。

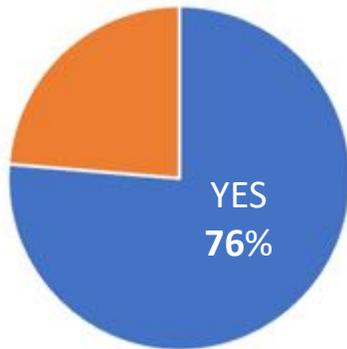


# こども基本法-屋代中学校での先行展開

- ・ラーニングパートの後半では、正答率が高くなる傾向を確認できている。前半の回答で、「こども基本法」への理解がある程度高まった可能性があったと考えられる。
- ・こどもが選挙権がなくとも、地域や学校に意見が言えることへの正答率は9割を超え、千曲市の「こども基本法」への対応、および、こどもまんなか社会を具体化するための中学生の意識が、回答プロセスを通じて醸成されていることが確認できている。

《こどもは義務や責任をはたさなくても、権利を主張したり、つかったりできる。》  
これは、(YES) か (NO) のどっち?

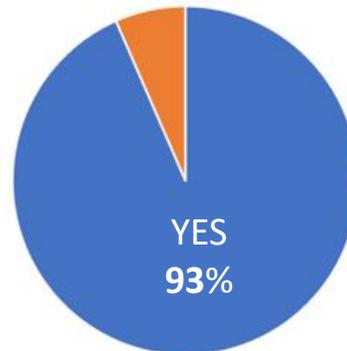
正解は (YES)



比較的高い正解率だが、義務と権利について、義務を果たさなければ権利を行使できないという誤解を持った参加者が、約1/4に上ることが判る。

こどもは選挙権がなくとも、地域や学校に意見が言えるし、意見を言える環境になっているべき。  
これは、(YES) か (NO) のどっち?

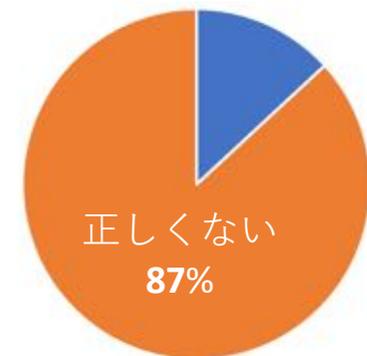
正解は (YES)



意見を言える環境であるべきであるという認識がほぼ共有化されている、

「社会の取り決めにまちがいがあっても、すでに法律で決まっているので、いまさら見直したり反対するのは良くない。」という考え方は、主権者として(正しい)か(正しくない)のどっち?

正解は (正しくない)



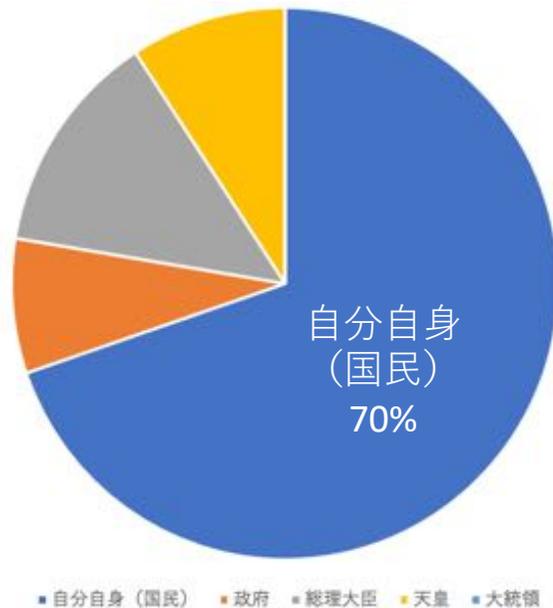
ラーニングパートの最後の設問であり、主権者のあり方について、理解が高い状態と言える。



# こども基本法-屋代中学校での先行展開

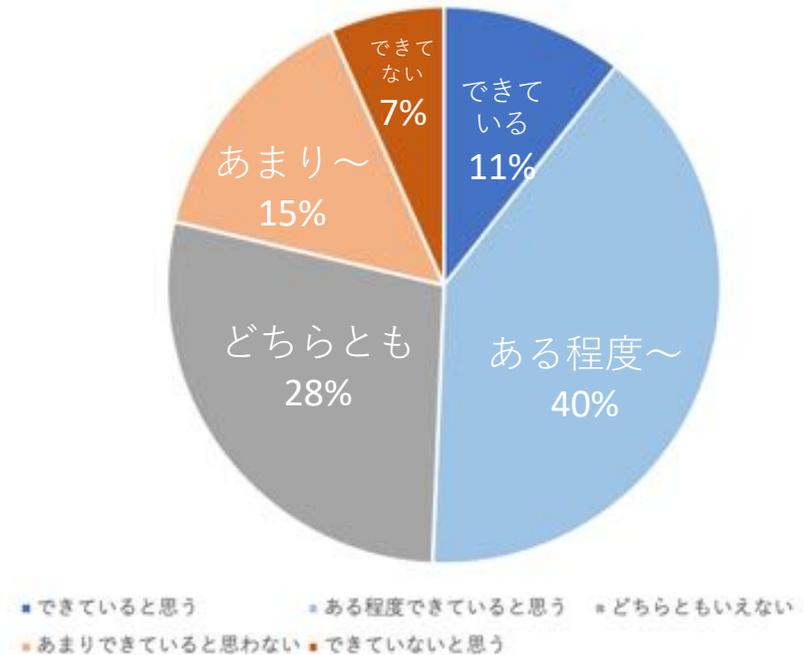
- ・ 国民主権を学校で習うには基本的に小学6年生であるが、正答率は70%に留まっている。
- ・ 「こども基本法」の趣旨である、自分の意見が言えているかについては、約半数が意見を言えていない状態にあることが明らかになった。

国を統治する力（まとめる力）である「主権」は、日本国憲法で、誰が持っているかと定められていますか？



ラーニングパートでの最初の設問であるが、主権の在り処について、3人に一人が誤解している状態。大統領という回答は0名。

あなたは、日々の生活、くらしの中で、『こども基本法』にあるように、個人として尊重され、自分の意見を学校や市役所などに言ったり、伝えたりすることができますか？



実際の意見を言ったり、伝える環境として、約半数（49%）は、できていると言えない状態にあるべき状態への認識が高い一方、現実の状態と乖離を感じてることが見える。（あるべき状態を構築することが求められる。）



# こども基本法-屋代中学校での先行展開

- ・画面での回答からしばらくあとに、校長先生と生徒数名とのランチミーティングを実施。回答を共有した状態でランチミーティングを行えたことで、生徒からは屈託のない意見が発せられた。
- ・1年生対象のワークショップでは、ワークシートを利用して、擬似的に「ポリネコ!CHIKUMA」を体験。部活や制服、地域にお店がほしいといった多様な意見「声」が多数寄せられた。今後はこうした「声」に対応を進めてゆくことで、千曲市のこどもまんなか宣言を具現化することができる。

## ・校長先生と生徒とのランチミーティング



## ・1年生対象のワークショップ







# 消防団-操法ポンプ大会への「声」

・これまで継続的に設問を案内し、市役所、消防団幹部から呼びかけたを続けたことで、真摯な「声」を寄せていただくことができた。こうした「声」にも応えるかたちで、「千曲市消防団改善計画」の策定につながった。

40代 男性

## 操法大会 廃止すべき

団員の負担が大きい。

操法大会の存在を理由に団員への勧誘を拒否される事例もある。大会という形ではなく、ポンプ操作を講習等で学ぶ形の方が良いと考える。

納涼煙大会や夏祭りへの消防団の出役は、地元への奉仕活動として重要だと考える一方、数年続いたボヤの際、団員が一般参加者から罵倒される場面も見受けられた。あくまで団員はボランティアであることから、その立ち位置や活動の意義を市民に向けて広く伝えてもらうことが重要であると考えます。

異常気象や災害が多発する昨今、行政だけで対応するのは限界がある。地元の住民による自衛消防組織は地域の安全確保のために必要な存在であり、今まで以上に重要度は増しているのではないかと考える。但し、旧来依然とした態勢や行事等は、令和の時代に合った形に改変していくべきだと考える。

20代 男性

## 操法大会 廃止すべき

競技的な側面が強く、火事場であまり役に立たない  
時間の無駄、団員への負担が大きい

- ・ ほぼ全ての年間行事は無駄と感ずるため即刻廃止とするべき
- ・ 特に祭典系の行事は、市民の関心も薄く開催する意味がない
- ・ 定例や年末年始警戒なども酒を飲んでるだけで集まる意味がない
- ・ 火災予防運動も人力で警鐘を鳴らす意味がない、意味を知っている市民も少ないし騒音なだけ
- ・ 待遇面が劣悪すぎる
- ・ 直接的な報酬だけでなく税金面での優遇などがあると良い
- ・ 一度始めたらやめられない、退団の方法などオープンにするべき

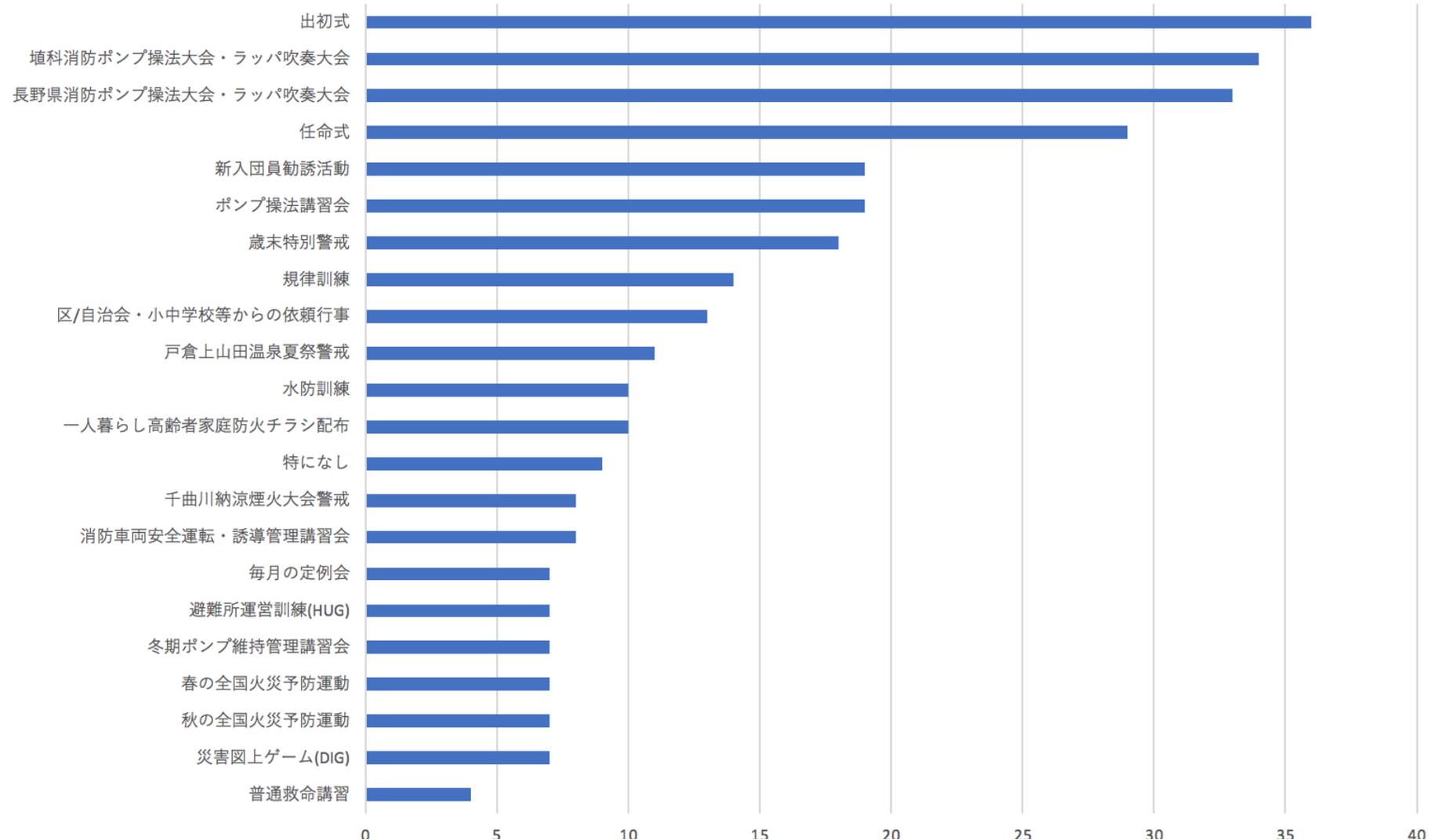


# 消防団-操法ポンプ大会について

問：操法大会以外の消防団の活動で、あなたが**縮小すべき**と考える行事や訓練はありますか？

「埴科消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会」、「長野県消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会」「任命式」「出初式」の4つが並ぶ  
これらは、改善すべきものとして挙げられているものと順番は異なるものの、同じである。

続いて、「新入団員勧誘活動」が続く

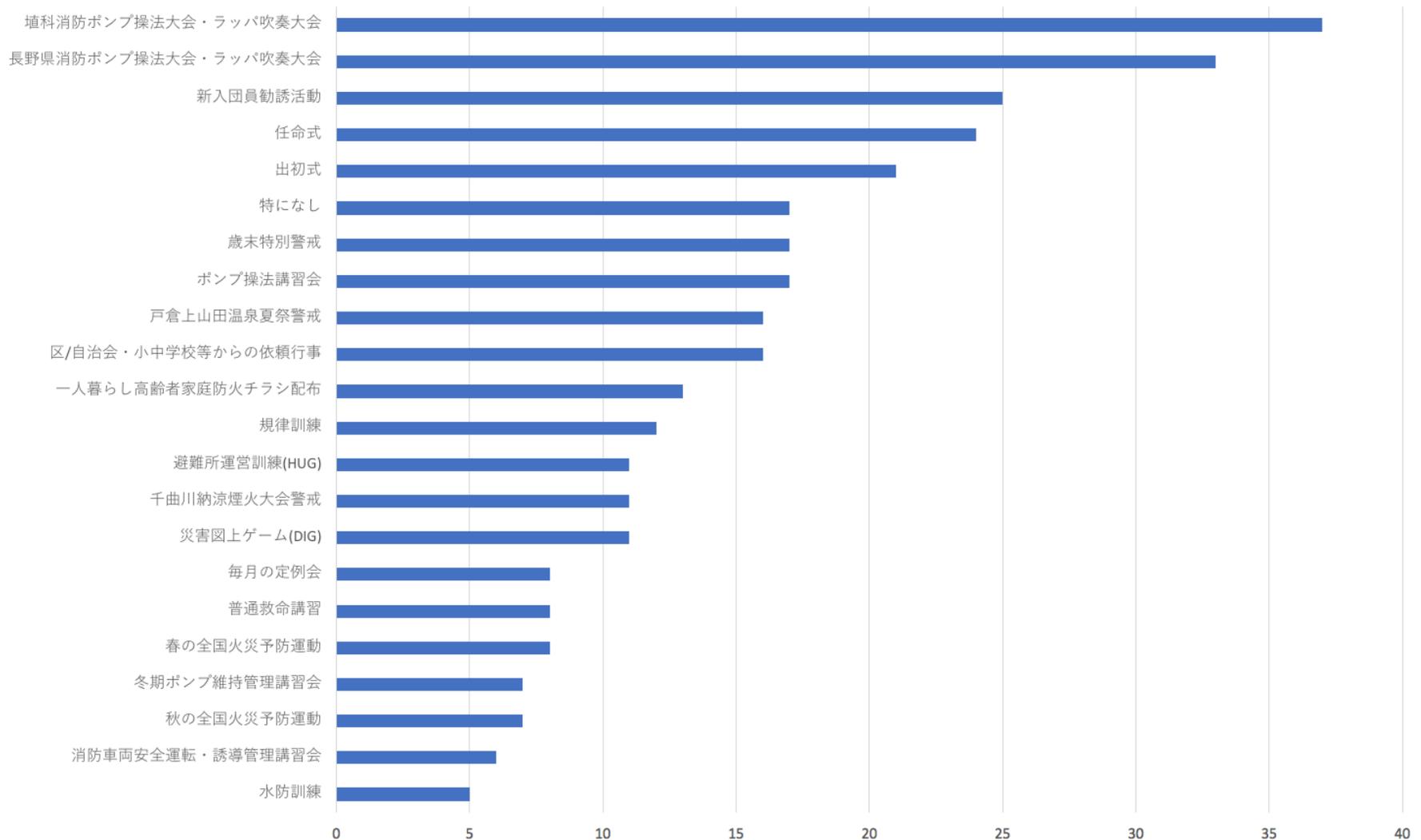




# 消防団-操法ポンプ大会について

問：操法大会以外の消防団の活動で、あなたが**廃止すべき**と考える行事や訓練はありますか？

「埴科消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会」、「長野県消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会」の次に、**「新入団員勧誘活動」**が挙げられている。この後に、「任命式」「出初式」が続く。



# 高校生へのアプローチ



- ・ 高校生（特に県立屋代高校の生徒）を対象にした設問を用意したが、多くの回答は得られなかった。
- ・ 受験などが念頭にある時期で、市役所に意見を伝えるという動機が乏しい状況も観察された。
- ・ 一方、意見からは下記のように、注目すべき回答も得られた。  
地域づくりなどでAO入試を検討する生徒などの発掘は有効なアプローチと考えられる。

## （質問）

あなたが考える、若い人が住みたくなる「まち」は、どんな「まち」ですか？

\* あなたの「声」がとても大切です。何かちょっとしたことでも良いのでご記入ください。（数百文字でも記入可能です。）

若い人達(自分も含めて)は、遊ぶ場所がある「まち」が欲しいと思います。

ゲームセンターが沢山ある、とかではなく、色々な雑貨店であったり、服屋さんであったり、複合型商業施設であったり、そういった買い物はせずともただ歩き回っているだけで楽しめるような場所が必要だと思います。

地方は生活する分には全くもって不便さを感じないと思いますが、やはりこう、刺激がないというか...休日に友達とどこか行こう!となっても、長野県は車がないとあまり遠くへはいけない上、お金もそこまでないですし、松本や軽井沢などの中東信なんかに行こうとしても電車代だけで2~3000円くらいかかってしまいます。

なので、行こうと思ったら気軽に行けるようなお店であったり、場所がある「まち」がいいなと感じます。

# 2024年度-実施スケジュール (案)

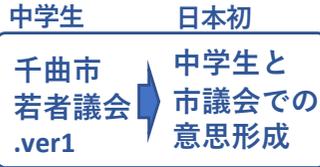
- ・「こども基本法」「まちづくり」を基軸に、継続的な展開から参加者を拡大。住民1000人以上が、千曲市役所とつながる環境を目指す。

## 2024年度の展開

## 2025年度



4校展開



- ・制服、校則などの改善（議題化し、考えるプロセスの共有、拡大）
- ・部活の深耕（地域連携:新聞部/メディア部\*/まちづくり部\*/消防部\*なども）
- ・教員の方々に向けた展開も検討
- ・アニメ作品『Turkey%』とのコラボも可能。

高校生  
小学生などにも拡大



4月～



住民参加によるまちづくりを発表



中高生など、保護者以外の参加者に拡大対応

4月～



11月9日～1月31日

9月の防災の日に合わせて展開も検討可能



4月～3月31日

2024年

2025年

2025年

